

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400393		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	日田市大字東有田字町ノ坪		
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、ゆったりした時間の中で入居者のペースで過ごしたり、また、施設内の畑で四季折々の農作物収穫も楽しみの一つです。入居者と職員で年2回 の味噌作りやらっきょう漬け等も四季をを感じる行事の一つです。2ユニットを活かし合同での食事会や外出・レクレーションが行を行っています。週に1回カラオケ教室や習字教室に参加し他の利用者との交流を深めています。年に1回家族会を兼ねて食事会にご招待をし職員の手作りの美味しい食事をたくさん作り、家族と入居者との楽しいひと時を過ごしています。安全面と美化の観点から常に環境の整備に努め本人が安心して心安らかに生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・三食とも、手作りの食事を提供している。畑での野菜作りや味噌作り等、利用者の力を活かして、食べる楽しさを大切に支援を行っている。
 ・事業所主催の「地域とのふれあい交流会」に地域の人を招き、事業所の取り組みを知ってもらいながら、地域の一員として交流を深めている。
 ・職員の連携がとれており、積極的に意見を出し合いながら、日々のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の拠点として公正で開かれた施設運営に努めるとの理念の基に全員が理解し日々の取り組み、理念を深く理解できるよう話し合っています。	理念をリビングに掲示し、毎朝唱和している。全職員で話し合いながら、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会へ加入しています。運営推進委員会に民生委員や自治会長の参加により地域との交流があり、又、中学校の文化祭・小学校・公民館事業の有田祭り等に参加しています。また、今年度は地域とのふれあい交流会を開催しました。	小中学生の職場体験の受入れや、公民館のふれあい祭りに参加している。地域の人が事業所に来てもらえるように、事業所主催の交流会を開催するなど、積極的に働き掛け、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のため小学校、中学校、高校生の受け入れをしています。お年寄りとのふれあい交流会で施設や認知症の理解などの支援も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2か月に1回行い参加者は自治会長、市職員、民生委員、包括支援センター、家族代表、職員での情報の交換しています。行政や家族の意見や情報等をサービスの向上に活かせるよう職員に周知しています。	運営推進会議では、事業所の実践状況や職員研修の報告を行っている。地域の参加者より防災の協力を得るなど、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会や市の職員等に相談し指導を頂き、災害時等には、施設を避難場所として活用してもらえるようになっています。	市担当者は、運営推進会議に毎回参加してくれる。また、電話等で事業所の取り組みを報告しながら、相談やアドバイスをもらうなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム協議会で拘束についての勉強会をし、身体拘束をしないケアに取り組む会議の中で研修を行い、職員に周知し身体拘束のケアにつなげています。	外部研修や内部研修を繰り返し行い、会議の中で全職員で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を通して学習し虐待をしないケアの取り組みを行っています。常に職員間でも特に注意して虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を通して学習し必要な方には利用して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の方針、特に利用料金や起こりうるリスク、退去時の補修の必要な範囲等の説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けて対応し、管理者・職員等に周知してサービスの向上に反映させています。	利用者の意見は、日々の中で聴くようにしている。家族からの意見は、面会時に直接もらうことが多い。年1回家族会を開催し、広報紙で利用者の様子を報告するなど、意見をもらえるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼を行い日常の業務の引き継ぎの際に問題点を説明し職員の意見を聞き業務などに反映しています。	会議や朝礼の中で、意見や提案を話し合う機会を設けている。職員は、積極的に意見を話し合いながら、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者にとって良いケアが出来るように向上心もち楽しく働くことが出来るように意見等の取り組み状況の把握をし、就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長が毎月発行する職員あてのコラムがあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・九大ブロック等に加え同業者との情報交換との交流、研修会等の活動においてサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後も毎日の会話を通じて不安の除去、信頼醸成に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時に家族からの相談があり不安・家族の要望・利用者の生活歴など聞くことで安心感をもってもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来所されたとき併設施設や他の施設の情報等を伝え安心できるサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望や意向をその都度確認しながら本人の出来ることやしていることを大切に、日常生活の中で会話を増やし、他の利用者との交流の場が出来るように職員は支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会の機会を多く持ってもらい、自宅に帰れない不安の軽減と家族の絆を大切にしている。年1回家族会で孫さんや子供たちにも参加してもらい家族とのふれあい、絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人の希望による外泊・外出が行われたり、盆・正月の外泊・日帰り等近所の方とのふれあいの支援が出来るよう努めています。	併設の事業所を利用している友人との面会や、家族との外泊や外出を働きかけるなど、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出等利用者同士が手をつなぎ、お互いに支え合い孤立させないように職員が支援しています。毎週の向日葵でのカラオケ教室・習字教室に参加し利用者同士が交流を持ち支えあうよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所等では、お見舞いに行ったり状況に応じて経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を聞き入れ、困難な場合は、家族や関係者からの情報収集を得、本人本位に家族と検討をしている。	日々の暮らしの中、本人の思いや意向を聞き取っている。また、認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式を利用し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集し、本人の馴染みのあるものを居室に持って来て頂き自分らしく安心して生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック・体操等をし心身状態の把握に努めています。特に体調不良がある方には、頻りにバイタルチェックをしています。本人・家族からの情報を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や職員間で話し合いを持ち家族会や面会時に家族の意見を聞き介護計画に反映している。	面会時などに家族の意見を聞き、職員の意見も取り入れながらモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録で状況を把握し介護に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅生活になった時のため、又は現在在宅の方のために共用型デイサービスが利用できる。日中、夜間に関わらず柔軟なサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館館長より情報を頂き地域行事の参加や消防団の方より災害時に備えて近隣の消防団の方が駆けつけて下さるようになっていいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者のかかりつけ医を利用でき、家族と協力しながら通院を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。状況に応じて、家族と一緒に職員が受診に付き添い、情報の共有や医療機関との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に気づき併設施設の看護師に相談したり、協力医療機関の医師に相談ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者個人の情報を医療機関へ提供し、医療関係者より情報収集をしたり退院後の相談・会議等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方に対してその都度、家族に状況報告を行い、又、事前に緊急時や希望の医療機関を確認をしている。	利用者の状況の変化時や、重度化した場合に、家族と話し合いを行っている。看取りや緊急時の対応について書類を整備しているが、看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況において救急車を要請し医療機関に搬送の方法をとっています。職員の話し合いは十分に行い指示により緊急時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、4月・10月に消防署の協力で避難訓練で避難経路や消化器の扱いまた誘導の訓練をしています。地域との協力については、近隣の消防団の協力を得られるようになっていいます。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を行っている。2階の居室からはスロープを伝い、非難出来るようになっている。緊急時には、地域の防災無線へ連絡し、地域の協力を得られるよう連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族や利用者に対してプライバシーについて話さないように配慮しています。	一人ひとりのプライバシーに配慮し、人格を損ねないような声掛けや対応に努めている。気づきがあればその都度、職員間で注意合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞くように心がけています。また、自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて本人が好きなことをして過ごしています。日々安心して穏やかに生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり外出時には、その方にあったおしゃれが出来るように支援しています。月に2回出張散髪の訪問で髪を切っていただき、身だしなみの支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスに配慮した食事の提供をしています。食事の買い物や食事の準備等利用者と一緒に行っています。また、食事の後のお茶碗洗いや片付けの手伝いをしています。	三食とも、手作りの食事を提供している。一人ひとりの力を活かし、食材の買い物から調理、片付けまで、利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、本人が摂取している食事量やカロリーについて注意し不足が見られたら食事以外でも摂取を考えています。自ら水分補給ができない方には状況に合わせて摂取できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きが出来る方には声掛けを行い見守りをしています。介助が必要な方には毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンの把握し、本人のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。自分でできる方は、見守りを行っています。	排泄パターンを把握している。一人ひとりのタイミングに合わせて声掛けや誘導を行ない、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維が摂れるようにメニューや適度な運動に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり個浴に入り職員との会話を楽しみながら入浴しています。体調不良時及び本人の意思を無視し無理に入浴しないで清拭にきりかえをし支援を行っている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、週3回の入浴となっている。入浴をしない日には、清拭や足浴をしている。重度化しても湯船に浸かる事が出来るように、リフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の換気やお天気の良い日は布団を干したりし、室温調節の管理等を行い快適に安眠や休息が出来るように支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の目的を職員が理解し都度様子を見て確認をしています。症状の変化があるときは、主治医に相談をし助言を頂くように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・カラオケ教室・習字教室等に行き他の利用者との交流をもち気分転換ができるように支援をしています。年3回利用者や職員と味噌づくりをしています。洗濯干し・洗濯物をたたむことも楽しみの一つです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との買い物や全員で戸外に外出をしています。	食材の買い物や散歩、庭でお茶を楽しむなど、日常的に外に出る支援を行っている。公民館に踊りを見に行ったり、高塚地藏尊やかかしまつりなどヘッドライブに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない利用者がほとんどです。本人のお小遣いは、職員管理で行い、買物に行くときにお金を預かっていることを伝えることもあります。(お金を持っていないから何にも買えないと訴える方がいる)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段は家族の面会がありますが、本人の希望で電話をかけることもあります。家族から電話をかけて来て下さり本人に取りつぎを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を植えたり、野菜を植え収穫するときに季節感を味わっていただいています。新緑や紅葉の時期に外出・散歩等をし季節感を感じて頂いています。	食事をするテーブル席とソファでくつろぐ場所を分けており、明るくゆったりとした空間となっている。利用者の書などの作品や季節感のある飾り付けをして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間でコミュニケーションの場所をつくり個々の時間は自室で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の中には仏壇を持ってきたり家族や本人の意思を聞き入れ馴染みの物等を生活に入れ安全な環境づくりをしています。	座イスや洋服掛け、化粧品や使い慣れた時計など、本人の馴染みの物や、好みの物を活かして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に入浴できるようにリフト浴の整備や利用者の状況に合わせて、手すりや浴室トイレ、廊下の設備を行い利用者が安全で使いやすいかを確認しています。		